

佐賀県伊万里湾総合開発地域
長崎県北松総合開発地域

保存用

土地分類基本調査

伊 万 里

5 万 分 の 1

国 土 調 査

佐 賀 県

1 9 7 5

序 文

我が国の国土は狭少で、世界有数の高密度の社会経済活動が営まれており、国土の有効利用をはかることが重要な問題となっております。

このため、国土調査法では国土の実態を把握するためこの開発地域土地分類基本調査を実施し、地形、地質、土壌等土地の自然条件を科学的、総合的に調査し、地域の特性に応じた各種開発計画の立案及び土地利用区分の基礎資料を提供するものであります。

さらに、昭和49年12月に施行された国土利用計画法では「国土は、現在及び将来における国民のための限られた資源であるとともに生活及び、生産を通ずる諸活動の共通の基盤である」として、土地に対する再認識を求め、その有効利用を強く訴えております。

佐賀県においては、県民の生活環境の確保と県土の均衡ある発展を図るため、さきに土地利用基本計画を策定し、地域の自然的、社会的、経済的、文化諸条件を総合的に配慮して適正な土地利用を進め、住民福祉の一層の向上を目指しております。

この調査は、国土庁の助成により、昭和48年度「武雄」、49年度「呼子・唐津」図幅地域を実施し、今回は「伊万里」図幅地域について調査を行い、ここにその成果をとりまとめましたので、今後の土地利用に御活用いただければ幸甚に存じます。

調査に当っては、佐賀県が事業主体となり、長崎県の協力を得て実施したもので、御協力をいただいた関係者の方々に深く感謝いたします。

昭和51年3月

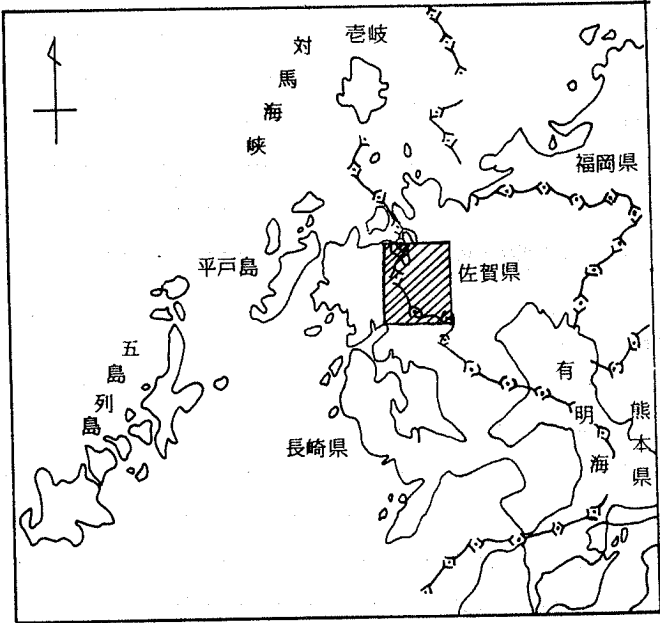
佐賀県総務部長 山 田 守 一

ま え が き

1. 本調査は、土地分類基本調査関係の各作業規程準則（総理府令）に基づいて作成した「佐賀県伊万里湾総合開発地域都道府県土地分類基本調査作業規程」により実施した。
2. 本調査の成果は、国土調査法施行令第2条第4号の2の規定による土地分類基本調査図及び土地分類基本調査簿である。
3. 調査の実施担当者は、下記のとおりです。

企画・調整・編集	佐賀県総務部土地対策課
地形調査	佐賀大学農学部 渡 辺 潔
	佐賀大学教育学部 大 島 恒 彦
表層地質調査	佐賀大学教育学部 大 島 恒 彦
土 壤 調 査	佐賀県農業試験場 木 原 唯 幸
	佐賀県農業試験場 田 中 茂 雄
	佐賀県林業試験場 実 松 敬 行
開発関連調査	長崎県農林土壌研究会
	佐賀県総務部土地対策課
	長崎県農林土壌研究会

位 置 図



目 次

総 論

I 位置および行政区画	1
II 人 口	2
III 気 候	3
IV 交 通	4
V 主要産業の概要	6
VI 開発の現状と構想	11

各 論

I 地 形 分 類	15
II 表 層 地 質	22
III 土 壤	25
IV 傾 斜 区 分	34
V 水系・谷密度	35
VI 土地利用現況	36
VII 土壤生産力区分	37
VIII 利水現況	39
IX 防 災	42
X 開 発 規 制	43

總

論

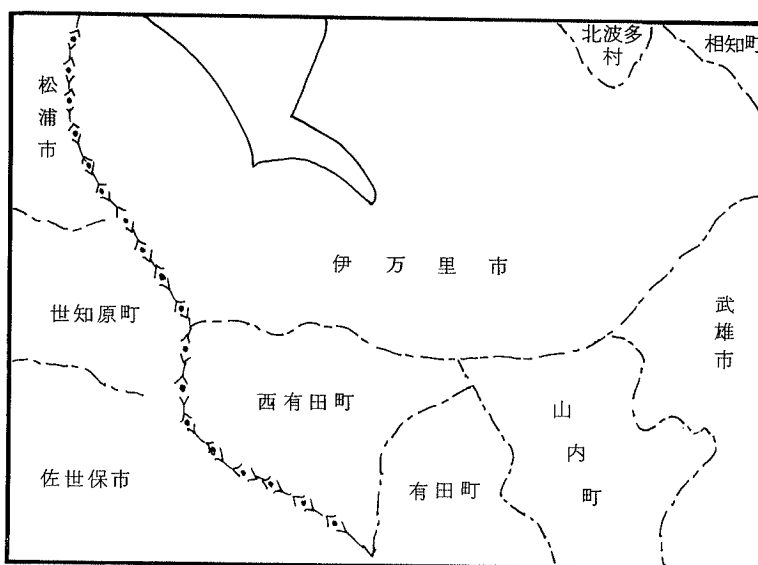
I 位置及び行政区画

1 位置

「伊万里」図幅は、佐賀、長崎両県の県境にまたがり佐賀県の西部、長崎県の北部に位置し、経緯度(的位置)は、東経 $129^{\circ}45'$ から $130^{\circ}00'$ まで、北緯 $33^{\circ}10'$ から $33^{\circ}20'$ までの範囲を占める。

図幅面積は約 410Km^2 で、ほとんどが陸地で、北西部に伊万里湾約 11Km^2 を含んでいる。

第1図 行政区画図



2 行政区画

図幅内の行政区画は第1図のように佐賀、長崎県を通じ4市5町1村からなっている。その内容は佐賀県側では西有田町の全域、伊万里市、有田町、山内町の大部分、武雄市の大半、及び相知町、北波多村の一部を包含し、長崎県側では佐世保市、松浦市及び世知原町の一部を包含している。

第 1 表 図幅内市町村面積

区分 市町村名	図幅内面積		市町村全面積 (Km ²) B	A/B(%)
	実数(Km ²) A	構成(%)		
伊万里市	193.90	47.3	252.88	76.7
武雄市	39.64	9.7	128.96	30.7
相知町	3.00	0.7	65.20	4.6
北波多村	1.00	0.2	26.26	3.8
山内町	37.96	9.3	40.76	93.1
有田町	21.07	5.1	26.74	78.8
西有田町	38.68	9.4	38.68	100.0
計	335.25	81.7	579.48	57.9
佐世保市	40.79	10.0	249.83	16.3
松浦市	12.87	3.1	94.70	13.6
世知原町	21.45	5.2	31.84	67.4
計	75.11	18.3	376.37	20.0
合計	410.36	100.0	955.85	42.9

(資料) 昭和49年、全国都道府市区町村別面積調

II 人 口

「伊万里」図幅に関係する市町村の人口動態は、第2表のとおりである。

この地域は、年々人口の減少が続いていたが、過密問題に端を発して、工業の地方分散及び地方定着の施策等が行われてきたため、最近に至って、人口の減少傾向は殆ど止まって増勢の方向に転じつつある。

特に、伊万里市に名村造船が開業し、周辺への波及効果が期待されている。

又、この地域は自然的条件等から見ても、佐賀、長崎両県一体となって広域的視点から地域行政を進める必要があり、現在「伊万里、北松地域広域市町村圏」を発足させ、地域の発展向

上をすすめている。

第 2 表 人口動態

(単位:世帯,人,%)

項目 市町 村名	昭和 4 5 年度			昭和 5 0 年度			増 減 数 (45年~50年)		増 減 率 (50/40)	
	世帯数	人 口	一世帯当 り人員	世帯数	人 口	一世帯当 り人員	世帯数	人 口	世帯数	人 口
伊万里市	15,047	61,561	4.09	15,746	60,914	3.87	699	△ 647	103.2	90.5
武雄市	8,269	35,377	4.28	8,575	34,250	3.99	306	△ 1,127	107.2	92.6
相知町	2,713	11,106	4.09	2,735	10,621	3.88	22	△ 485	97.0	85.0
北波多村	1,103	4,299	3.90	1,115	4,174	3.74	12	△ 125	93.8	85.2
山内町	2,026	9,463	4.67	2,158	9,357	4.34	132	△ 106	107.3	93.4
有田町	3,835	15,120	3.94	3,960	14,826	3.74	125	△ 294	110.7	96.0
西有田町	1,764	8,111	4.60	1,872	8,198	4.38	108	87	110.2	97.5
計	34,757	145,037	4.17	36,161	142,340	3.94	1,610	△ 13,210	104.7	91.5
佐世保市	68,232	247,898	3.63	72,508	250,723	3.46	4,276	2,825	117.0	101.5
松浦市	6,713	25,801	3.84	6,819	24,979	3.66	106	△ 822	87.6	76.0
世知原町	1,207	4,757	3.94	1,257	4,744	3.77	50	△ 13	61.6	53.7
計	76,152	278,456	3.66	80,584	280,446	3.48	8,815	△ 8,324	112.3	97.1
総 計	110,909	423,493	3.82	116,745	422,786	3.62	10,425	△ 21,534	109.8	95.2

(資料) 「国勢調査」

Ⅲ 気 候

本図幅地域は、気候的には玄海から深く入りこんだ伊万里湾と国見山系の影響を受け、県内でも温暖の地域に属する。年平均最高気温 20° 前後、年平均最低気温 10° 前後となっており、年平均気温は 16° 前後である。

また、年間降水量は 1,700~2,100mm 程度で、県平均を下回っているが、河川は比較的発達している。

第 3 表 月間平均気温 (°C)

(1961~1970)

観測所 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均
伊万里	4.8	5.5	8.8	14.3	18.6	22.1	26.7	27.7	24.0	17.6	12.6	7.4	16.8
武雄	4.3	5.1	8.5	14.5	18.8	22.0	26.7	27.7	23.8	17.4	11.9	6.4	15.6
相知	4.3	5.1	8.4	13.8	18.3	21.6	26.8	27.5	23.3	17.1	11.8	6.9	15.4

(資料) 佐賀地方気象台

第 4 表 月間平均降雨量 (mm)

(1961~1970)

観測所 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
伊万里	100	66	131	238	222	284	342	183	189	127	128	90	2,097
武雄	78	68	109	200	202	298	344	207	168	107	115	63	2,001
相知	83	59	103	176	173	263	302	174	147	104	112	69	1,766

Ⅳ 交 通

1 道 路

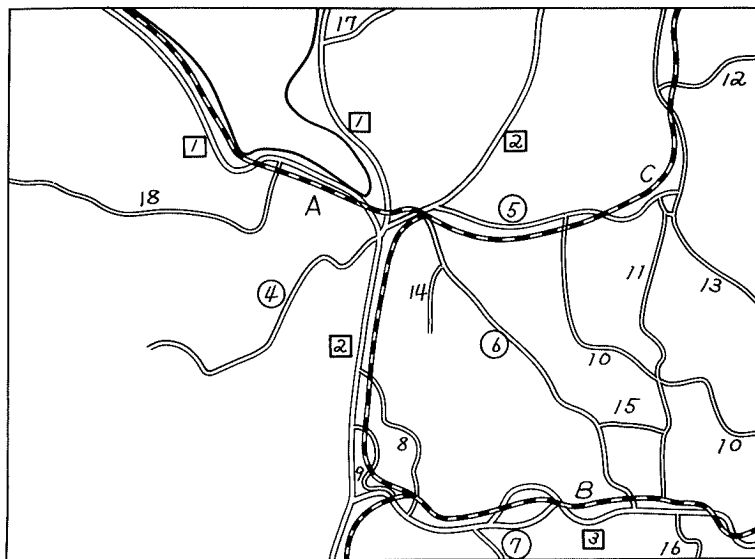
本図幅の道路体系は、国道 34 号線より武雄市で分岐し佐世保市に至る国道 35 号線、福岡市を起点とし長崎市へ至る国道 202 号線及び唐津市から海岸線を通じて佐世保に至る国道 204 号線を主要幹線として、その他多数の地方道からなっている。

2 鉄 道

本地域の鉄道は、肥前山口—佐世保を結ぶ佐世保線、有田—伊万里—佐世保に至る松浦線及び伊万里—博多を結ぶ筑肥線の 3 本が軸となっている。

現在まで、すべて単線で運行されているが、佐世保線については本年中には完全に電化されることとなっており、地域経済の浮揚に期待がかけられている。

第 2 図 道路，鉄道現況図



A 松浦線（有田－佐世保）

B 佐世保線（肥前山口－佐世保）

C 筑肥線（博多－伊万里）

- | | |
|------------------------|------------------|
| 1. 一般国道 204 号線 唐津，佐世保線 | 10. 一般県道 金石原，武雄線 |
| 2. 〳 202 号線 福岡，西有田線 | 11. 〳 三間坂，相知線 |
| 3. 〳 35 号線 武雄，佐世保線 | 12. 〳 畑津，大川野，厳木線 |
| 4. 主要地方道 佐世保，伊万里線 | 13. 〳 川古，北方線 |
| 5. 〳 伊万里，多久線 | 14. 〳 黒髪山公団線 |
| 6. 〳 伊万里，武雄線 | 15. 〳 梅野，有田線 |
| 7. 〳 川棚，有田線 | 16. 〳 鳥海，嬉野線 |
| 8. 一般県道 大木，有田線 | 17. 〳 塩屋，大曲線 |
| 9. 〳 蔵宿，有田線 | 18. 〳 伊万里，松浦線 |

V 主要産業の概要

7 農 業

本図幅地域は耕地，林野の面積が全体の74%を占め，そのうち耕地面積は23%と比較的少ない。

農業は総じて土地，労働生産性ともに低いところで，農外就業に依存している。

田は用水不足地区が多く，又土地改良が進んでいないため機械導入による近代化が阻害されている面がある。このため，高収益農業を目指して圃場整備，かんがい排水，広域農道等基盤整備が進められており，今後の農業経営の確立が期待されている。

又，この地域はオレンジベルトとの一角として，みかん，なし，ぶどうの栽培がさかんで，また，野菜及び山麓の牧草地を利用した畜産業のウエイトも高く，今後複合経営による団地づくりを進めて生産性の向上を目指している。

第5表 土地利用状況

(単位：ha，%)

	総面積	耕 地 面 積 h a						森 林 面 積	そ の 他	比 率 (%)		
		田	畑				計			耕地	林野	その他
			普通畑	樹園地	牧草	小計						
伊万里市	25,288	3,820	365	1,890	49	2,300	6,120	13,781	5,387	24.2	54.5	21.3
武雄市	12,896	2,240	114	1,060	43	1,220	3,460	6,805	2,631	26.8	52.8	20.4
相知町	6,520	696	28	484	-	512	1,210	4,078	1,232	18.6	62.5	18.9
北波多村	2,626	318	79	298	-	377	695	1,589	342	26.5	60.5	13.0
山内町	4,076	643	102	278	40	420	1,060	2,152	864	26.0	52.8	21.2
有田町	2,674	134	58	38	-	96	230	1,986	458	8.6	74.3	17.1
西有田町	3,868	722	69	332	3	404	1,130	1,939	799	29.2	50.1	20.7
計	57,948	8,573	815	4,380	135	5,329	13,905	32,330	11,713	24.0	55.8	20.2
佐世保市	24,975	2,810	658	1,110	-	1,770	4,580	10,962	9,433	18.3	43.9	37.8
松浦市	9,470	1,560	493	436	3	932	2,490	4,436	2,544	26.3	46.8	26.9
世知原町	3,184	374	38	121	-	159	533	1,898	753	16.7	59.6	23.6
計	37,629	4,744	1,189	1,667	3	2,861	7,603	17,296	12,730	20.2	46.0	33.8
合計	95,577	13,317	2,004	6,047	138	8,190	21,508	49,626	24,443	22.5	51.9	25.6

(資料) 総面積は全国都道府市区町村別面積調(S49年1月1日現在)
 耕地面積は佐賀，長崎共第21次農林水産統計年報(48年度現在)
 // 森林面積(佐賀県分)管公造林を除く(48年度現在)
 // // (長崎県分) // 含む(//)

第 6 表 農業粗生産額及び生産農業所得 (昭和 48 年)

(単位: 百万円, %)

	耕 種 部 門								養 蚕 ⑧	畜 産 部 門					加 工 農 産 物 ⑩	粗 生 産 額 A+B+C ⑪	生 産 農 業 所 得	生 産 農 業 所 得 率 ⑫	農 業 生 産 性				
	米	麦	雑 穀 類	い も 類	野 菜	果 実	工 芸 作 物	そ の 他		計 ⑬	役 肉 牛	乳 牛	豚	に わ と り					そ の 他	計 ⑭	一 農 戸 当 り	10 耕 家 当 り	一 農 業 専 従 者 当 り
伊万里市	2458	2	18	69	373	1,308	112	294	4,634	18	145	328	187	835	4	1,499	43	6,176	4,237	6.84	739	69	556
武雄市	1,493	5	9	45	344	350	77	58	2,381	-	137	171	254	109	9	680	---	3,061	2,113	69.0	538	61	388
相知町	492	2	3	9	145	292	3	86	1,032	0	7	8	128	25	3	171	1	1,204	848	70.4	789	70	543
北彼多村	209	---	1	6	40	149	48	50	503	0	66	9	11	76	1	163	47	613	479	62.2	1,154	69	719
山内町	373	2	5	22	174	74	36	11	697	---	56	49	72	138	6	321	---	1,018	683	67.1	493	64	444
有田町	76	0	0	3	25	18	3	10	135	---	2	2	7	61	2	74	1	210	137	65.2	402	59	564
西有田町	485	0	2	10	49	183	5	71	805	0	186	13	79	299	1	578	2	1,385	880	63.5	788	78	738
計	5,586	11	38	164	1,150	2,374	284	580	10,187	18	599	580	738	1,543	26	3,486	94	13,785	9,377	68.0	4,903	470	3,952
佐世保市	1,524	9	10	155	938	574	18	364	3,592	-	523	281	658	626	11	2,099	13	5,704	3,400	59.6	559	74	378
松浦市	807	11	4	38	289	171	129	69	1,518	-	230	59	298	176	-	763	26	2,307	1,407	61.0	680	56	380
世知原町	223	1	1	8	30	3	43	3	312	-	95	4	10	3	0	112	44	468	283	60.5	684	53	337
計	2,554	21	15	201	1,257	748	190	436	5,422	-	848	344	966	805	11	2,974	83	8,479	5,090	60.0	1,923	183	1,095
合 計	8,140	32	53	365	2,407	3,122	474	1,016	15,609	18	1,447	924	1,704	2,348	37	6,460	177	22,264	14,467	65.0	6,826	653	5,047

(資料) 第 2 1 次佐賀県農林水産統計年報 (佐賀統計情報事務所)

第 2 1 次長崎県 (長崎)

「0」単位にみたないもの, 「-」事実のないもの, 「...」事実不詳又は調査をかくもの。

2 工 業

本図幅地域は伊万里港を中心として、天然の良港に恵まれ、陶磁器の積出港、背後地には北松、西松浦炭田を擁し、造船業の発展と相まって隆盛となった歴史を有している。

したがって石炭産業は廃退したものの、伝統ある窯業、木材産業、機械工業等が次第に発展してきている。

最近に至り、港湾指向型工業として名村造船所が誘致され、49年から始業し、地域の発展浮揚に大きな期待が寄せられているが、さらに関連産業のはり付きを進めているが、最近の不況の影響から停滞きみとなっており、周辺地域も今後に期待をつないでいる。

第7表-1 地域の工業（昭和48年）

	事 業 所 数 (カ所)												従業者数 計 (人)	製 造 品 出荷額等 (万円)
	総 数	食 料 品	織 維 衣 料	木 製 材 品	紙 加 工 紙 品	出 版 印 刷	化 学	ゴ ム 皮 革	窯 業 土 石	鉄 鋼 金 属	機 械 器 具	そ の 他		
伊万里市	314	86	9	56	4	15	2	1	118	12	7	4	6,831	3,763,089
武雄市	132	35	4	47	3	7	-	-	19	4	10	3	1,832	5,478,355
相知町	39	14	4	4	-	1	1	1	8	3	1	2	782	2,013,060
北波多村	14	7	2	2	-	-	-	-	3	-	-	-	583	1,297,040
山内町	68	9	1	16	1	-	-	-	31	3	4	3	965	8,613,333
有田町	292	17	-	12	8	4	2	-	233	1	10	5	5,531	13,600,840
西有田町	60	7	-	8	-	-	-	-	43	1	1	-	1,064	3,366,650
計	919	175	20	145	15	27	5	2	455	24	33	17	17,588	72,000,001
佐世保市	797	262	51	102	8	59	(1)8	7	91	79	59	70	18,037	102,390,050
松浦市	66	33	8	8	1	1	-	-	5	2	7	1	2,513	6,919,320
世知原町	11	4	3	2	-	-	-	-	1	-	-	1	429	6,071,800
計	874	299	62	112	9	60	(1)8	7	97	81	66	72	20,979	10,991,600
合 計	1,793	474	82	257	24	87	(1)13	9	552	105	99	89	38,567	181,916,001

(資料) 昭和48年工業統計調査(48. 12. 31)

()は石油石炭製品関係

第7表-2 地域の商業

	商店数	従業者数	年間販売額(万円)
伊万里市	1,070	4,177	3,372,077
武雄市	698	2,430	1,943,292
相知町	176	452	198,979
北波多村	62	151	76,175
山内町	126	340	247,136
有田町	464	2,064	1,502,643
西有田町	122	333	237,006
計	2,718	9,947	7,577,308
佐世保市	4,569	22,671	15,579,553
松浦市	417	1,042	368,875
世知原町	86	210	53,099
計	5,072	23,923	16,001,527
合計	7,790	33,870	23,578,835

(資料) 49年商業統計調査 (49. 5. 1)

長崎県分はS47年商業統計調査 (47. 5. 1)

第8表 市町村別産業別就業者数(15才以上)〔S45. 10. 1現在〕

	総 数	第1次産業				第2次産業				第3次産業				分 類 不 能	構 成 比		
		農 業	林 業	水 産 業	計	鉱 業	建 設 業	製 造 業	計	卸売業 小売業	サービ ス業	その他	計		第1次産業	第2次産業	第3次産業
伊万里市	30910	9957	43	329	10329	561	2453	5895	8909	4362	4220	3087	11669	3	33.4	2.88	3.78
武雄市	18017	6644	41	7	6692	65	1212	2426	3703	2773	3016	1830	7619	3	37.1	2.06	4.23
相知町	5470	2029	11	3	2043	162	402	754	1318	743	771	595	2109	1	37.3	2.41	3.86
北波多村	2037	803	11	2	816	24	157	349	530	268	256	166	690	-	40.1	2.60	3.39
山内町	4976	1930	6	-	1936	31	400	1278	1709	448	508	375	1331	-	38.9	3.43	2.68
有田町	7707	239	2	-	241	7	308	3890	4205	1904	781	476	3261	-	3.1	5.46	4.23
西有田町	4335	1416	5	3	1424	20	482	1200	1702	448	427	334	1209	-	32.8	3.93	2.79
計	73452	23018	119	344	23481	870	5414	15792	22076	10946	9979	6863	27888	7	32.0	3.01	3.80
佐世保市	113971	9957	45	1241	11243	747	9006	19885	29638	29434	22299	21342	73075	15	9.9	2.60	6.41
松浦市	10841	4072	6	478	4556	30	840	1313	2183	1458	1514	1124	4096	6	42.0	2.01	3.78
世知原町	2117	936	5	-	941	59	165	266	490	236	252	198	686	-	44.5	2.31	3.24
計	126929	14965	56	1719	16740	836	10011	21464	32311	31128	24065	22664	77857	21	13.2	2.55	6.13
総計	200381	37983	175	2063	40221	1706	15425	37256	54387	42074	34044	29527	105745	28	20.1	2.71	5.28
佐賀(県計)	410874	126730	443	9790	136963	2467	27821	66445	96733	68819	60621	47706	177146	32	33.3	2.35	4.31
長崎(県計)	695041	155431	1171	42950	199552	12931	51185	94512	158628	129033	112562	95188	336783	78	28.7	2.28	4.85

(資料) 国勢調査

(注) その他: 金融・保険業, 不動産・運輸通信業, 電気・ガス・水道業, 公務

3 観 光

この地域は独特の奇岩と伝説に恵れた黒髪山を中心とした県立自然公園、さらには景観を有する北松県立公園を擁しており、県民のレクリエーションの場として活用されている。

今後国民の要望を満たすためにも国見台公園整備、八幡岳県立公園整備、国見山を中心とする北松県立公園の整備、伝統ある焼き物の里を結ぶ広域観光ルートの形成、及び玄海国定公園と伊万里港を結ぶ観光地帯の形成が期待されている。

Ⅴ 開発の現状と構想

本地域は、開発面においては、伊万里、有田、北松を中心に石炭鉱業と窯業の地として発展してきたが、30年代におけるエネルギー革命により石炭鉱業は衰退していった。両県域の産炭地域指定10市町村のうち3市町村（伊万里、相知、北波多）が図幅内にあり、産炭地振興のため産業基盤の整備、優良企業の導入、農業の振興、観光の開発等総合的な観点からその施策が進められている。

特に西九州臨海工業の中核地帯形成の一環として、伊万里湾総合開発計画が推進され、これと相まって臨海型、システム型の木材製品、住宅関連、石油、造船工業等の導入により大型臨海工業地帯形成を開発の基本方向としている。

また、農業の面において生産性の向上による団地づくりを進めるため、土地基盤の整備、かんがい排水事業の推進を行なっている。

本図幅内で現在着手されている主な開発事業は次のとおりである。

(1) 伊万里湾臨海工業団地造成事業

西九州臨海工業地帯を形成し、伊万里湾総合開発の一環である。拠点団地として伊万里団地（S47～51）112haの造成促進を図っている。

(2) 有田焼高度化事業（S43～51）

陶磁器工業の協同化の推進と卸商業団地を建設し、伝統ある窯業の近代化とその振興が進められている。

(3) 九州自然歩道（S49～54）

九州自然歩道の一環として背振、北山ダム、天山、八幡岳、黒髪山等103kmにおよぶ

山岳，湖沼，溪流を結び，自然にしたしみ，文化遺跡の探訪，県民の要望にこたえるため健全なレクリエーション活動の場として自然歩道の整備を図ることとしている。

(4) 県営圃場整備事業

大川（伊万里47年～54年） 270 ha

松浦（伊万里47年～54年） 288 ha

(5) 県営かんがい排水事業 875 ha

国見（伊万里，有田，西有田 48年～55年 古木場ダム建設中）より導水

(6) 広域営農団地農道整備事業

国見山麓（伊万里，有田，西有田 49年～55年）

営農団地面積 7,159 ha

農道整備事業受益面積 1,943 ha

各 論

I 地形分類

「伊万里」図幅は佐賀県西部の杵島、松浦丘陵部（土地分類図「佐賀県」）の一部と、長崎県北部の大半をしめる所謂北松溶岩台地（または西岳溶岩台地）の一部とで構成されている。

図幅東部は武雄図幅よりつづく諸山地が松浦川本流の谷底平野で終り、松浦川支流によって開析された小規模な山地および丘陵地で構成されている。中央部には城古岳および青螺山を中心とするやや纏った山地があり、その西縁は伊万里湾および有田川低地で画されている。図幅西部は所謂北松溶岩台地であるが、志佐川、佐々川、相浦川などによる開析が強く進み、平坦面が極めて少いので、その大半を国見山山地として一括し、その一部に溶岩台地があるとした。

段丘は主に有田川、伊万里川、松浦川の河岸段丘で、高位と低位の2段にわかれている。その重要なものには地形区分名を付した。このほか溶岩台地の斜面下などに台地状の平坦面が見出される。低地は伊万里湾沿岸には人工の加わった三角洲性低地が発達し、リヤス式海岸の特徴であった島嶼や半島は丘陵となっている。このほか、各河川に沿い狭長な谷底平野が分布し、国見山山地の麓にはやや傾斜の急な扇状地性低地の発達が見られる。

本図幅内の地形区分は次の通りである。

- | | |
|-----------------|--------|
| 1 | 山 地 |
| I ₁ | 石倉岳山地 |
| I ₂ | 骨蓬岳山地 |
| I ₃ | 大野岳山地 |
| I ₄ | 岸岳山地 |
| I ₅ | 日高地山山地 |
| I ₆ | 国見山山地 |
| I ₇ | 城古岳山地 |
| I ₈ | 大陣岳山地 |
| I ₉ | 八幡岳山地 |
| I ₁₀ | 青螺山山地 |
| I ₁₁ | 松武山地 |
| I ₁₂ | 黒岳山地 |

I₁₃ 四方山山地

I₁₄ 赤穂山山地

I₁₅ 暮ノ頭山地

I₁₆ 神六山山地

2 丘陵地

II₁ 今福木場丘陵

II₂ 東分丘陵

II₃ 牧ノ島丘陵

II₄ 志気丘陵

II₅ 木須・伊万里丘陵群

II₆ 立花丘陵群

II₇ 今岳丘陵群

II₈ 大川野丘陵

II₉ 桃ノ川丘陵

II₁₀ 多々良丘陵

II₁₁ 鳥越丘陵

II₁₂ 原明丘陵

II₁₃ 前ノ平丘陵

3 溶岩台地

III₁ 国見山山地中の溶岩台地

a 石盛山台地

b 日南郷台地

c 黒岩台地

d 日向郷地台地

e 平川原地台地

f 八天岳台地

g 中野台地

III₂ 城古岳山地中の溶岩台地

a 小里川台地

b 立目台地

4 段 丘

IV₁ 日尾段丘

IV₂ 大里段丘

IV₃ 有田川沿岸段丘群

IV₄ 江湖辻段丘

IV₅ 平尾段丘

IV₆ 南波多段丘群

IV₇ 桃ノ川段丘

IV₈ 森ノ木段丘

IV₉ 宮野段丘群

5 低 地

V₁ 伊万里湾沿岸低地

V₂ 浦ノ崎低地

V₃ 志佐川低地

V₄ 佐々川低地

V₅ 相浦川低地

V₆ 有田川低地

V₇ 伊万里川低地

V₈ 松浦川低地

1 山 地

1-1 石倉岳山地

上部を玄武岩、下部を新第三紀堆積岩類で構成され、北松溶岩台地に含まれる中起伏山地であるが、やや孤立しているので分類した。石倉岳(標高313.1m)の山頂部直下から発生した土石流(明和27・28年)は有名である。

1-2 骨蓬岳山地

「呼子・唐津図幅」中の骨蓬岳(標高177m)を中心とする小起伏山地とこれに附随する丘陵地で、主に第三紀堆積岩類で構成され、本図幅内にもその一部を見せている。

1-3 大野岳山地

半円錐状を呈する大野岳(標高424.0m)の中起伏山地で、一部に小起伏山地および丘陵地を附随する。頂部に玄武岩をのせ、古第三紀堆積岩類で構成される山地で頂部に僅かに平坦面を留めている。

1-4 岸岳山地

「呼子・唐津」図幅内の岸岳(標高320m)を中心とする中～小起伏山地の一部で古第三紀堆積岩類で構成されている。

1-5 日ノ高地山山地

日ノ高地山(標高288.1m)を中心とする中起伏山地で、古第三紀堆積岩類で構成され、「呼子・唐津」「武雄」図幅内につづく。山頂附近はビュート状地形をしめし、直下に崩落堆積物による平坦面がある。(「武雄」図幅内では松浦地域につづく山地として松浦山地の名称を使用しているが、その一部をこのように改める。)

1-6 国見山山地

有田川以西の所謂北松溶岩台地は、上場地(「呼子・唐津」図幅)と同様に北西へ傾斜し、台地上の河川はいずれも北ないし西へ流れ、またその下刻作用は著しく、比高200m以上に達することが多い。東および南側は標高300m以下に漸く侵蝕谷が発達する程度で、稜線は起伏少なく単調に連続しているため、全体を一括して、その中の最高点国見山(標高776.7m)の名称をもって国見山山地とした。その稜線の一部に溶岩台地面が残っているほか頂部に緩傾斜面をもつ部分は起伏量を考慮して丘陵地Ⅰとして表現、また溶岩台地下の緩傾斜面も丘陵地ⅠまたはⅡとしてしめした。山地東縁の下部はやや緩傾斜であり、平行する侵蝕谷で寸断されていて上部の山地と様相を異にするので、起伏量を考慮して小起伏山地として表現した。

1-7 城古岳山地

城古岳(標高404.0m)を中心とする主として第三紀で構成される中起伏山地で、周辺に小起伏山地や丘陵地を伴う。頂部に玄武岩の溶岩台地をのせているほか、北西にも溶岩台

地を伴う。

1-8 大陣岳山地

伊万里市南波多町から松浦町にかけて分布する小起伏山地群で、大陣岳（標高268.8m）国見岳（標高176.6m）などがある。大陣岳には粗粒玄武岩の厚い岩床が伴われるほか主に古第三紀で構成される。県市道井手野—大川野線に沿う松浦川低地と古川北部の徳須恵川の谷底低地の比高は30mをこえる。

1-9 八幡岳山地

「武雄」図幅内の八幡岳（標高764m）を中心とする山地の西縁部で中～小起伏山地を主とする。眉山（標高518.2m）を中心とする山塊がやや独立しているため、これを眉山山地として区分することが考えられるが、この場合は「武雄」図幅内の御所川の支流川内川を境界線とすることが考えられる。眉山頂部に安山岩がのっているほか、主として古第三紀堆積岩類で構成されている。

1-10 青螺山山地

青螺山（標高599.2m）を中心とする大起伏～小起伏山地で一部に丘陵地を伴う。腰岳、青螺山、黒髪山をそれぞれ中心とする3山地の集合体とも考えられる。後二者はそれぞれ安山岩、流紋岩で構成される急峻な山地で、腰岳は頂部に玄武岩および流紋岩をのせる古第三紀堆積岩類で構成される。本山地の周辺は主に古第三紀堆積岩類で構成される小起伏山地がつづき、また黒髪山東側には流紋岩、玄武岩で構成される丘陵地が伴われる。

1-11 松武山地

伊万里市松浦町から武雄市武内町にわたる起伏量の極めて小さい小起伏山地で、主として古第三紀堆積岩類で構成される。

1-12 黒岳山地

黒岳（標高368.0m）を中心とする主として火山岩類で構成される中起伏山地で、一般に急傾斜面が多く、南部および東側に第三紀堆積岩類で構成される緩傾斜地を伴っている。

1-13 四方山山地

松浦川および支流鳥海川のやや広い低地に囲まれて孤立する小起伏山地で、主に火山岩類で構成され、中心部は急傾斜面が多く、周辺に第三紀堆積岩類が分布する。

1-14 赤穂山山地

「武雄」図幅内に東半部をもつ中～小起伏山地で、流紋岩の溶岩円頂丘を頂部にもつ中起伏山地のほかは、古第三紀堆積岩類および粗粒玄武岩で構成される小起伏山地である。

1-15 幕ノ頭山地

幕ノ頭(標高319.8m)を中心とする中～小起伏山地で、主として第三紀堆積岩類で構成されるが、東部の一部には流紋岩質凝灰角礫岩を伴う。有田川南限の分水界を構成し、長崎、佐賀県境でもある。

1-16 神六山山地

早岐図幅内の神六山(標高447.0m)を中心とする佐賀・長崎県境を構成する中～小起伏山地である。中央部の中起伏山地は玄武岩および安山岩の火山岩類で構成され、山頂より船ノ原に至る緩傾斜面をのせているが、金山岳(標高352.3m)を中心とする中起伏山地は、流紋岩質凝灰角礫岩で構成され、著しく急斜面で囲まれる。主として古第三紀堆積岩で構成される小起伏山地と丘陵地を伴う。

2 丘陵地

地形区分図に丘陵地としてあげたものは、山地から切り離された独立性の強いものに限った。

このうち、今福木場丘陵(Ⅱ₁)は石倉岳山地の急斜面下にあつて、古い大規模地すべりの跡地とも見られる特殊な地形をしめしている。また東分丘陵(Ⅱ₂)は玄武岩溶岩をのせ、溶岩台地の性格が強いが、連続性のある平坦面が少く、玄武岩の分布も限られているので、一括して丘陵地とした。

その他の丘陵地は主として第三紀堆積岩類で構成されているが、比較的大規模な丘陵地は志気丘陵(Ⅱ₄)で、「呼子・唐津」図幅からつづいて典型的なケスタ地形をしめしている。丘陵地Ⅰとした今岳丘陵群(Ⅱ₇)の主部、牧ノ島(Ⅱ₃)および多々良(Ⅱ₁₀)丘陵は、起伏量はやや大きいケスタ地形をしめし、西又は東側に緩傾斜面をもっている。後二者では岩床状に貫入した粗粒玄武岩体によって、その特性が強調されているようである。丘陵地Ⅱとした鳥越丘陵(Ⅱ₁₁)や今岳丘陵群の一部にもケスタ地形が見られる。

3 溶岩台地

伊万里図幅(地質調査所,昭和33年)によれば,西岳玄武岩類は初期,中期,後期玄武岩類に区分され,これらがそれぞれ台地面を作っている。これらの台地面はほぼ「呼子・唐津」図幅の低位・中位・高位の台地面に対応している。国見山地の中の溶岩台地は次のようになる。

高位溶岩台地…………… B₇ ~ B₈ (後期玄武岩類)

中位溶岩台地…………… B₆ (中期玄武岩類)

低位溶岩台地…………… B₄ (初期玄武岩類)

これらの溶岩台地は志佐川,佐々川,相浦川などで深く侵蝕され,これらの河川の間には挟った細長い分水界という形で残存している。

城古岳山地の溶岩台地は初期玄武岩類中の最初期に当る B₁ ~ B₂に対応するものとされているが,ここでは低位溶岩台地とした。

4 段 丘

段丘は高位および低位の2段に区分される。高位段丘は周辺の低地に対し比高15~25mをもち,周辺急崖には基盤の第三紀堆積岩類が露出しているが,表面にはうすい砂礫層とその上に淡褐色ロームをのせている。高位段丘としては日尾(IV₁),大里(IV₂),平尾(IV₃),森ノ木(IV₈)がその代表的なもので,特に森ノ木段丘東部は厚い浮石を含む火山灰が堆積している。低位段丘は比高10m以下で,うすい砂礫層をのせているが,側面には基盤の第三紀堆積岩類,或は粗粒玄武岩が露出している。

溶岩台地の斜面下などに崩落堆積物をのせた平坦面が見出される。この平坦面を砂礫段丘(GtIII)として表現した。

5 低 地

5-1 伊万里湾沿岸低地

この低地は主として軟弱な泥層で構成され湾奥では干潮時に広い干潟があらわれる。現在の海岸線は干拓によるもので,この低地内に見出される小さい丘陵地の裾には波蝕のあとが見られる。伊万里湾西岸には国見山地から流下した河川による扇状地性低地が見られる。

5-2 浦崎低地

昭和26年、昭和32年の人形石山の地すべりに伴う土石流によって、その上部が埋められている。災害復旧工事によって水田化しているので、一応扇状地としてしめしておいた。またこの低地に見られる段丘は新第三紀堆積岩で構成されているように見えるが、根なし地塊であると考えられている。

5-3 その他の河川低地

谷底平野として区分されるものが大部分で、未固結堆積物はうすく、河床には第三紀堆積岩類などの基盤岩が露出することも多い。有田川西岸には礫にとむやや傾斜の大きい扇状地が見出されるほか、伊万里市大川野東部にやや広い扇状地性低地がある。

文 献

- 佐賀県(1954) : 佐賀県の地質と地下資源
地質調査所(1958) : 五万分の一伊万里図幅
経済企画庁(1974) : 土地分類図「佐賀県」

II 表層地質

本地質図は「佐賀県の地質と地下資源」の五万分の一炭田地質図と五万分の一地質図幅「伊万里」とを基礎とし、これに佐賀大学教育学部卒業論文の資料を加えて構成した。

本図幅の主要構成岩類は古第三紀および新第三紀堆積岩類、玄武岩をはじめとする各種火山岩類である。

1 固結堆積物

古第三系相知層群(始新世)および杵島層群(漸新世)、新第三系佐世保層群(中新世)に区分される。相知層群芳、谷層および佐世保層群には石炭層を伴い、唐津炭田および佐世保炭田として稼行されたが、本図幅内の炭坑はすべて閉山された。

相知層群は本図幅内では芳・谷層上部層が武雄市赤穂山附近に見出されるのみで、砂岩とし

て表現されている。

杵島層群は下より杵島層・佐里砂岩層（砂岩泥岩互層）、行合野砂岩層・畑津砂岩層（砂岩）、畑津頁岩層（泥岩）の順に重なり、本図の東半分を占めて分布している。ドーム乃至盆状の緩やかな褶曲構造をしめしているが、本図では走向・傾斜の記号のみで表現するに留めた。

佐世保層群については最下部相浦層を砂岩、図幅内最上位の加勢層を泥岩、その間の中里、柚木、世知原、福井の各層を砂岩泥岩互層としてしめた。相浦層が神六山、四方岳、黒岳および青螺山山地の一部に見出されることがあるほかは、図幅の西部に分布している。城古岳山地で盆状褶曲構造をしめしているが、国見山山地では走向N-S～NNEで西へ傾斜する単斜構造をなしている。

2 火山性岩石

2-1 粗粒玄武岩

固結堆積物中に岩床～餅盤状に貫入している岩石で、岩質は粗粒玄武岩が主であるが石英安山岩質であることもある。肥前粗粒玄武岩類（松本・山崎・富田1960）とよばれている。武雄市福祇附近、伊万里市大陣岳、木須および牧ノ島などに見出されるほか小岩体として各所に分布している。

2-2 讃岐岩

無斑晶質古銅輝石安山岩で黒髪山西部に流紋岩類におおわれて僅かに分布している。応瀬山附近では採石されている。

2-3 玄武岩類

玄武岩は主に国見山山地に広く分布し、その厚さも最大約300m（国見山附近）に達する。国見山山地では各所に厚い凝灰角礫岩層を伴い、この中には単斜輝石の美しい結晶を含んでいることで有名である。国見山山地では溶岩流はB₁～B₈の8層に区分されていて、これらの間には凝灰角礫岩や下位溶岩の表面風化帯や表土、時にはシルトや砂礫層をはさむことがある。

2-4 安山岩類

複輝石安山岩から角閃石安山岩まで種々の岩相が見られる。眉山は主に角閃石安山岩質で

あるが、やや古く、鮮新世に入るとの説もある。青螺山は下部に凝灰角礫岩～火山角礫岩の厚層を伴い、その侵蝕地形が雄岩雌岩などの景勝地として知られている。

黒岳・四方岳・神六山は安山岩溶岩のほか凝灰角礫岩を伴い、また玄武岩・流紋岩などとも交互して複雑な構造をしめしている。

2-5 流紋岩類

流紋岩は凝灰質角礫岩を伴って黒髪山附近に広く分布している。この附近の凝灰角礫岩の大半は溶結していてガラス質のレンズをはさみ堅硬である。このほか赤穂山山地には溶岩円頂丘を作る小岩体が多数見出される。同様な形は黒岳西部や青螺山北東部にも見出される。

黒髪山東部の宮野附近には真珠岩質を呈するものがあり、西部の広瀬山附近や腰岳頂部の流紋岩下部にもガラス質部が見出される。

このほか岩脈として各所に見出される。

2-6 ロームおよび火山灰

高位段丘上には淡褐色を呈し、角閃石の針状結晶を含むローム層が見出される。特に大里台地西部および平尾台地東部および北部で厚い。

また森ノ木台地東部では浮石片を伴う火山灰層が5～10mの厚さをもって堆積している。

3 未固結堆積物

3-1 礫

国見岳山地の玄武岩類の下位に入ノ久保砂礫層が伴われることがあり、本図では世知原南の溶岩台地下にうすく画かれている。鮮新世の堆積物と考えられる。

段丘（高位および低位段丘）面にはうすく砂礫層がのっており、洪積世の堆積物と考えられる。局部的は厚く数mに達することがある。

青螺山の安山岩の下位には大川内山附近に厚い砂礫層が見出されている。

3-2 砂 礫

松浦川の谷底平野を除く河川低地および扇状地の堆積物は砂および礫にとみ、このような表現をとった。

3-3 砂 泥

松浦川の谷底平野は周辺に急峻な山地が少く流路が緩傾斜のためか、河岸で観察される堆

積物は、時には礫を伴うが、泥の多い砂または砂まじり泥であることが多く、このような表現をとった。

3-4 泥

伊万里湾沿岸低地はシルト質で内陸部ではややうすいが、沿岸部ではかなり厚くなる。

3-5 泥まじり礫

玄武岩分布地域の急斜面下の平坦面、あるいは地すべり跡地などに、斜面から崩落した大小の転石・角礫と砂・泥の混合した淘汰不良の堆積物が見出されることが多い。石倉岳の土石流や人形石山の地すべり地塊もこの表現でしめた。

また伊万里湾岸に見られる埋立地なども同様な表現とした。

文 献

前出のほか

松本徑夫・山崎達雄・富田 達(1960) : 唐津炭田中部地区における肥前粗粒玄武岩類とその随伴岩類。 九大生産研報 №28

古川和代(1968) : 唐津炭田中央部に見られる異常断層について。九州炭技連誌 Vol. 22, №2

Ⅲ 土 壤

一 佐 賀 県 一

1 山地、丘陵地の土壌

本図幅の山地は、長崎県境に沿って南北に長い、国見山(777m)を中心とする玄武岩母材の西岳山地とほぼ中央部には青螺山(599m)を中心として、安山岩、流紋岩、玄武岩を母材とする青螺・黒髪山地と八幡岳(746m)の西端部をなす安山岩母材の眉山(518m)山塊が分布する。また、大野岳(424m)など玄武岩を母材とする起伏量400m未満の小起伏山地が一部分布するが、大部分は起伏量200m未満の三紀層を母材とする山麓・丘陵地である。

林野土壤は、一般的に沢筋に湿性、山腹部に適潤性、尾根筋部に乾性の土壤が出現するが、山麓、丘陵地が多い本図幅では、弱乾性土壤の面積占有率が高い。

また、三紀層や流紋岩を母材とする地域では黄褐色の褐色森林土壤、玄武岩母材の地域では暗赤色土壤～褐色森林土壤、安山岩を母材とする地域では褐色森林土壤となる場合が多い。主尾根稜線部など凸地形の風衝地では、玄武岩は勿論、安山岩母材の場合も乾性の暗赤色土壤が出現し、赤色風化の傾向が認められる。

特異なものとして、西岳山地の暗赤色土壤地域に表層や埋没土の色調から、黒ボク土が出現することがあるが、局所的であり、図示しなかった。なお、林野土壤を7統群、11土壤に区分したが、その概要はつぎのとおりである。

1-1 岩石地

青蝶・黒髪山地の山頂部や山腹部には、基岩が露出したり、碎屑岩が堆積しており、人工造林不可能地として区分した。斜面面の碎屑岩堆積地には植穴客土をして、ヒノキ、マツを造林し、比較的良好な生育をしている例もあるが、乳待坊など屹立状巨岩や急崖は、黒髪山県立自然公園として観光資源の大きな要素となっている。

1-2 石炭鉱滓堆積未熟土壤

第三紀層地域に点在し、ピラミット型、台型など特異な景観を呈する。土壤の分化が極めて未熟な不良炭、礫などを材料としており、つぎの1統にまとめた。

ボ夕統: 伊万里湾南部を中心に点在する。生ボタの表層は風化して重粘土質となり、新しいものは化学性が不安定である。古いものはA層の発達も認められ、緩斜面ではススキ、セイタカアワダチソウ、ヒエ、シャシャンボ、ネジキ等がみられる。海岸埋立用土や産炭地振興工業用地造成用土として利用されている。

1-3 乾性褐色森林土壤（黄褐色系）

下層土が7.5 YR, 10 YRの色相を有し、褐色森林土壤および黄色土壤の色調からはずれる残積性の土壤で、金立統としてまとめた。

金立統: 三紀層や流紋岩あるいは一部安山岩地域の尾根筋に多く分布する。落葉の分解が悪くてA層は極めて薄く、砂質のものはA層が剥脱された受食土となっている場合もある。下層土はやや堅密で通気不良となっており、生産力も低い。マツの人工林の枯損が著しく、コシダが繁茂し、矮性の天然広葉樹が点在して、混交林あるいは未立木地の様相を呈している。

る場合が多い。

1-4 褐色森林土壌

下層土が7.5 YR, 10 YRの色相を呈し、明度が4以下の色調を有する適潤性(～弱乾性)土壌で、つぎの2統に区分した。

嬉野統:山腹の上部を中心に山麓、丘陵凸地に広く出現する。玄武岩母材の場合は重粘土質であるが、安山岩母材の場合は小礫を含み、透水性も比較的良好でA層も厚いが、下層土はやや堅く、根系の分布は少ない。主としてヒノキの造林地となっているが、生産力はやや劣る。

多良統:一般に山腹下部や山脚部の匍行～崩積土や山腹緩斜面の石状地残積土に出現する。角礫を含む上層は膨軟で深く、A層の発達も良好である。生産力は比較的高く、主としてスギの造林地となっている。

1-5 褐色森林土壌(黄褐色)

黄褐色系の乾性褐色森林土壌の周辺に出現し、つぎの2統に区分した。

神埼統:三紀層や流紋岩の丘陵性山腹部に広く出現するB D(d)型の土壌である。一般にツマノ型で漏水性が悪く、A層も比較的薄い。流紋岩母材の場合は急斜面を呈し、崩壊地ともなり場合が多い。主としてヒノキの造林地となっており、一部マツおよびスギの人工林もみられる。

北山統:比較的起伏に富む三紀層や流紋岩母材の山腹中部～沢筋部に出現する。植壤土で落葉の分解は良好であり、土層は膨軟で深い。生産力は比較的高く、主としてスギの造林地となっている。

1-6 湿性褐色森林土壌

山脚部、沢筋部の凹地の崩・運積土で、肥前統としてまとめた。

肥前統:集水面積が比較的大きい凹地や、上昇斜面に挟まれたU字谷に出現することが多い。腐植に富む膨軟なA層は極めて厚いが、下層土はツマリ型で通気不良の場合もある。生産力は大きく、スギの適地となっている。

1-7 暗赤色土壌

5 YR, 2.5 YRの色相で、明度4以下の色調を呈するもの。主として玄武岩母材の西岳山地に広く分布し、つぎの3統に区分した。

上場1統: 玄武岩, 安山岩を母材とする風衝地尾根筋に帯状に出現する。土層は一般に深いが強粘質であるため, A層の発達が極めて悪いツマリ型土壌である。生産力は極めて低く, 矮性広葉樹が点在するほか, 未立木地ないし原野状態となっている場合が多い。

上場2統: 山腹凸地や小起伏斜面に弱乾性土壌として広く分布する。土層は深いが強粘質で, 下層土の透水・通気性が悪いため, 根系の分布は少ない。主としてヒノキの造林地となっているが, 生産力はやや劣る。

八幡統: 山腹凹地や山脚部に多く出現する。土層は深く, 膨軟なA層の発達も良好であるが, 下層土がやや堅く, 生産力は中庸で, 主としてスギの造林地となっている。

2 丘陵地, 低地の土壌(農地土壌)

本図幅の佐賀県域で, 土壌の生成と関連の深い地質, 地形について概観すれば第三紀層の丘陵地がもっとも広範囲に分布し, その中に玄武岩, 流紋岩の小起伏山地(大野岳, 城古岳, 腰岳その他)が点在し, 西部や中南部に中起伏山地(国見岳, 青螺・黒髪山地)がある。低地としては伊万里湾沿岸の三角洲性平坦地と伊万里川, 有田川, 松浦川支川沿いに小面積ずつ分布している。このような地形条件のため畑, 樹園地は傾斜地に多く, 水田も平坦低地から山腹傾斜地にかけて分布している。

これら農地の急傾斜地は残積性土壌が大部分で, その中で分布率の高い土壌は第三紀層, 玄武岩, 流紋岩等に由来する粘質~強粘質の黄色土壌で, ついで赤色土壌, 暗赤色土壌, 淡色黒ボク土壌の順に分布面積は少なくなっている。

また, 水積性土壌として地形面のやや高い所に褐色低地土壌があり, さらに低地には土性が粘質~壤質の灰色低地土壌, 強粘質の細粒灰色低地土壌, 細粒グライ土壌, 礫層を有する粗粒灰色低地土壌が分布している。これらの低地土壌は褐色低地土壌の一部が普通畑であって, ほとんどが水田である。

本土壌図は全国統一土壌統名(土壌統の設定基準および土壌統一覧表第一次案, 農林省農技研化学部土壌第三科, 昭和48年1月発行)を用い, その分類基準にもとづいて作成した。

農地土壌を9土壌統群, 26土壌統に区分したが, その概要は次のとおりである。

2-1 淡色黒ボク土壌

俵坂統: 下層土は玄武岩を母材とする粘質土壌であるが, A層又はA B両層が非固結火

成岩（火山灰）の堆積物であり腐植にとむ。土壌の磷酸固定力が強く、養分にやや乏しい。

2-2 赤色土壌

唐原統：玄武岩の風化物を母材とする強粘質の残積土壌で、B層位に風化礫を含むことが多く、C層が風化礫層になっているものもある。主に樹園地で、土壌生産力はやや低い。

日の出松統：主として玄武岩の風化物を母材とし、全層が強粘質土壌で下層の土色が赤褐～赤色である。マンガンの点状結核を有する。台地、丘陵地斜面に分布する残積性の水田土壌で生産力は中程度である。

2-3 暗赤色土壌

湯島統：玄武岩の風化物を母材とする強粘質の残積土壌である。土壌断面の土色以外の特徴は唐原統に類似し、土層は緻密で透水性悪く、土壌は養分にやや乏しい。果樹園として利用されている。

2-4 黄色土壌

赤山統：主として第三紀層砂岩又は頁岩等を母材とする残積土壌である。土性は強粘質で未風化の角礫を含むことがある。土壌養分にやや乏しく、生産力はやや低い。主として果樹園である。

鶴木山統：土壌の生成母材および堆積様式は赤山統に類似するが、土性が粘質で若干の未風化礫を含むことが多い。土壌養分にやや乏しく、主として果樹園である。

大代統：主として三紀層砂岩を母材とする壤質の残積土壌であるが、表層が粘質な土壌の場合もある。土壌の自然肥沃度がやや低く、保水力が小さいため、過乾になりやすい。主として果樹園である。

形上統：深さ30～60cmから礫層が出現する粘質～強粘質の残積土壌で、急傾斜地にあるものは養分の溶脱が激しく、土壌生産力が低い。殆どが樹園地（みかん園）である。

北多久統：主として玄武岩または第三紀層の風化物を母材とする残積性の黄褐色強粘質土壌で、マンガンの点状結核を有する。水田として利用され生産力は中程度である。

新野統：主として第三紀層砂岩の風化物を母材とする残積性の黄褐色粘質土壌でマンガンの点状結核を有する水田土壌で、生産力は中程度である。

風透統：深さ30cm以内から礫層又は岩盤が出現する残積性の黄色土壌で、土性は壤質～粘質、水田として利用され、生産力は概して低い。

氷見統： 深さ30～60cmから礫層が出現する残積性の黄色土壌で、主として玄武岩の風化物を母材とし、土性は強粘質～粘質、水田として利用され生産力は概して低い。

土佐山統： 深さ30～60cmから礫層が出現する残積性の黄色土壌で土性は壤質、水田として利用され、生産力は概して低い。

2-5 褐色低地土壌

樺下統： 河成の運積土壌であり、地形的には河岸段丘である。堆積層序は複雑であるが、土性は粘質のものが多し。普通畑として利用されている。

大木統： 水積性の強粘質黄褐色土壌で、マンガンの結核を有する。灰色低地土よりやや高い地形面にあつて排水は良好である。水田として利用され生産力は中程度である。

真手野統： 水積性の粘質土壌で下層土の色は黄褐色、マンガンの結核を有する。水田として利用され生産力は中程度である。

井尻野統： 30cm以内から礫層が出現する水積性の黄褐色水田土壌で、保肥力が弱く、水稻の生産力は概して低い。

大沢統： 30～60cmの深さから礫層が出現し、土性は粘質～強粘質の水積性黄褐色土壌で、保肥力がやや弱く水稻の生産力は一般に低い。

2-6 細粒灰色低地土壌

佐賀統： ほぼ全層が灰色を呈する水積性の強粘質土壌でマンガンの点状結核を有する。有効土層が厚く、保肥力が大で土壤養分にも恵まれ、水稻収量は極めて高く、かつ安定している。ただし、通気透水性が不良で特に畑作では排水に留意する必要がある。

緒方統： 平坦低地に分布する水積性の強粘質水田土壌で土性、斑紋結核、土壤養分、保肥力、通気透水性等は佐賀統と同様で、異なるのは下層土の土色が灰褐色を呈する点である。水稻の生産力は高い。

2-7 灰色低地土壌

宝田統： ほぼ全層が灰色を呈する水積性の粘質土壌で、マンガンの点状結核を有する。平坦低地に分布し、水田として利用され生産力は中程度である。

清武統： 水積性の壤質土壌で主要土色は灰色を呈し、マンガン結核を有する。水田として利用され水稻生産力は中程度である。

久世田統： 深さ30～60cmから礫層を有する水積性の灰色土壌で、土性は粘質～強粘質

である。水稻生産力はやや低い。

2-8 粗粒灰色低地土壌

国領統： 深さ30cm以内から礫層または砂層が出現し、土色が灰色を呈する水積性の土壌で、谷底低地や河川沿いに分布する。土性は必ずしも粗粒質ではなく、粘質、壤質の場合が多い。水稻生産力はやや低い。

2-9 細粒グライ土壌

川副統： 強粘質のグライ土壌で一般に50～80cmからグライ層が出現する。河海成沖積の自然陸化地又は干拓地などの平坦地に分布し、佐賀統に類似する土壌で生産力は概して高い。ただし、排水対策が必要な土壌である。

田川統： 作土直下から青灰色のグライ層で、全層強粘質であるが深さ30cm以下にも鉄の斑点を有する。河海成沖積の平坦低地に分布し、水田として利用されているが一部未耕地の干拓地がある。

— 長 崎 県 —

1 山地の土壌

1-1 土壌の概要

長崎県北部、佐賀県境附近のこの帯はいわゆる松浦玄武岩に広く被われており、地形、地質の両面から母材の性質が土壌に強い影響を及ぼしている。全域に暗赤色土壌が分布し、褐色森林土壌は僅かに点在するに過ぎない。又、乾性の土壌との分岐点すれすれに位置する土壌タイプが多く、線引きが難かしい。県下で有数の林業地帯であり、人工林率は9割を超えるが不成積造林地が各所に認められ、今後の施業についての問題が生じている。

1-2 細 説

1-2-1 乾性褐色森林土壌

玄武岩台地の高み、かなり傾斜のある斜面等に点在している。ヒノキ、スギの造林に利用されているが生産力はそう高くない。

1-2-2 乾性褐色森林土壌（黄褐色系）

南部の三紀層地帯に僅かに認められる。主として常緑広葉樹林として放置されているが、無理に造林しても大きな成功は望めない。都市林的な意味もあり、このままでの推移が適当

と思われる。

1-2-3 褐色森林土壌

分布は極めて少ない。しかし、立地条件に恵まれ、理化学性とも良好で生産力は高い。スギ、ヒノキ植栽に利用されている。

1-2-4 褐色森林土壌（黄褐色系）

これも分布は極めて限られ、図幅南端に小面積存在する。三紀層を主な母材としており、部分的には玄武岩の混入も認められる。現在主として広葉樹林として利用されているが、造林されたスギ、ヒノキの生育は良好である。

1-2-5 暗赤色土壌（乾性）

玄武岩台地の凸部に現われ、図幅の全域に広く分布する。総体的に緩斜地が多く、造林して不成積林が多く出ている統群である。ヒノキ植栽が大規模に進められており、多くのトラブルの潜在が予想される。

1-2-6 暗赤色土壌

玄武岩地帯の傾斜地に広く存在する。前項の統群に比べ、堆積様式等で異なり、やや生産力の高いものが多い。ヒノキ、スギの造林に極めてよく利用されている。

1-3 山地の土壌と土地利用

ここでの最大の課題は台地上の暗赤色土壌の取扱いについてであろう。八天岳西斜面、国見山から西北に伸びる緩斜の尾根等に不成積造林地が多発している。成林したものでも地位指数（40年時樹高 m ）9程度の不良ヒノキ林が多く、所によっては全木が根曲りやシロアリ害のため、胸高あたりまで材としては使えないものまで見られる。対策は容易には樹てられそうもないが、従来の施業法の踏襲のままでは危険度が増すばかりである。採算性等経済面からも考えねばならないが、現在、大規模に造林されているヒノキにスギをいくらか混植すれば、少くとも一斉単純林への道だけは避けられる。スギの生育はこの地方ではヒノキを凌ぐ場合が多く、もう少し混植を顧みてみる価値があるのではないかと考えられる。

2 丘陵台地低地の土壌

2-1 土壌の概要

本図幅は長崎県の北西部にあたり、松浦市、世知原町、佐世保市の西部が佐賀県の伊万里

市、西有田町に接している。本地域は第三紀層を基盤とし、その上部は安山岩、玄武岩に覆われ山地を形成している。国見岳、鳥帽子岳、国見山、八天岳、隠居岳等の連山より源を発する志佐川、佐々川、相浦川、小森川等の大小河川の流域では上流であるため低地土壌の発達は少なく、褐色低地土壌が散在するにすぎない。

丘陵台地の土壌は黄色土壌が多く、大部分は水田として利用されており、畑地として利用されているところは少ない。又、赤色土壌、暗赤色土壌も散在しているが、水田として利用されているところが多く、畑地は少ない。なお台地の一部には台地グライ土壌が分布し、水田として利用されている。

2-2 土壌細説

2-2-1 赤色土壌

下層土の土色が5YR4/4より赤い土壌である。玄武岩および安山岩の風化物を母材とする土壌で、表土の土性はCL~Lie, 下層土はLie~HCである。畑地として利用され、野菜、飼料作物等が栽培されている。

2-2-2 赤色土壌（湿性）

赤色土壌で鉄、マンガンの斑紋結核を有する土壌である。安山岩および玄武岩の風化物を母材とする土壌で表土の土性はCL~Lie, 下層はLie~HCである。水田として利用されている。

2-2-3 黄色土壌

下層土の土色が5YRより黄色味の強い土壌である。表土の土性はCL~Lie, 下層土の土性はLie~HCである。玄武岩および安山岩の風化物を母材とする土壌で、丘陵斜面や台地に分布しているが分布面積は小さい。野菜、飼料作物、ミカン、茶等が栽培されている。

2-2-4 黄色土壌（湿性）

黄色土壌で鉄、マンガンの斑紋結核を有する土壌である。安山岩、玄武岩の風化物を母材とする土壌で、表土の土性はCL~Lie, 下層土はCL~HCである。地表下30cm以内あるいは60cm以内に礫層を有する土壌が多く、分布面積は一番広い。水田として利用されている。

2-2-5 暗赤色土壌

赤色土壌に似ているが、それよりも明度彩度ともに低く、下層土の土色は5 YR 4/4 又はそれ以下である。玄武岩、安山岩の風化物を母材とする土壌で、表土の土性はCL~Lic, 下層土はLic~HCである。松浦市、佐世保市に僅かに分布している。野菜、ミカン、飼料作物、麦、甘藷等が栽培されている。

2-2-6 暗赤色土壌（湿性）

暗赤色土壌で鉄マンガンの斑紋結核を有する土壌である。安山岩、玄武岩の風化物を母材とする土壌で表土の土性はCL~Lic, 下層土はCL~HCである。丘陵斜面に分布し、水田として利用されている。

2-2-7 粗粒褐色低地土壌

下層土の土色が黄褐色の低地土壌で、鉄、マンガンの斑紋結核を有する。表土の土性はCL~Lic, 下層土はCL~HCで河川の流域に分布し水田として利用されている。

2-2-8 細粒グライ土壌

作土直下か地表下30~50cm以下グライ層を有する土壌である。台地土のグライ土壌で土性はLicである。水田として利用されている。

IV 傾斜区分

当図幅は地形上つぎのような地域に大別される。すなわち、西部の西岳山地、中央部の青螺・黒髪山地、南部の山内・有田地区丘陵部、北部の松浦地区丘陵部と有田・伊万里川低地に分類される。

西部の西岳山地は北西または西へ緩傾斜する玄武岩質の溶岩台地で佐賀県内は急斜面をしており斜面は単調な等高線で連続している。山頂附近の傾斜はS₆、S₅、S₄で急であるが、しだいに緩傾斜となりS₃、S₂となっているが浸食谷が発達している。長崎県側は緩傾斜を示しS₂が多いが河川の浸食が激しく河川に面した斜面ではS₆、S₅が示されている。佐代川および佐志川上流部は玄武岩台地でS₆、S₅が多く深く浸食された所はS₇が見られる。

中央部の青螺・黒髪山地は青螺山、黒髪山、牧ノ山、腰岳、黒岳で構成されるが、地質は堆

積岩の上に各種火山岩類が重なっており、急崖および急斜面である。青螺山頂附近は S_7 , S_6 , S_5 が多く、黒髪山頂附近は S_6 , 有田ダムは S_6 , S_5 である。腰岳は玄武岩溶岩流上面に平坦面を生じ、この上に流紋岩溶岩が重なってできた山地で山頂附近は平坦で S_3 であり、山腹は一部急斜面の S_6 , S_5 であるが大半は S_4 , S_3 である。黒岳も上半部は凝灰角礫岩で構成され山頂附近は S_6 , S_5 で深い浸食谷が発達し S_6 , S_5 , S_4 が多い。

南部の山内・有田地区丘陵部は松浦川の上流を中心とする地域で小起伏山地によって取りかこまれ盆地状をなしているが S_5 , S_4 , S_3 が多い。

北部の松浦地区丘陵地は大野岳、城古岳、大陣岳などの小起伏山地を含む丘陵群で、大野岳城古岳は玄武岩で構成され、大野岳山頂附近は S_3 で中腹は S_5 と緩になっている。城古岳も山頂附近は $S_3 \sim S_2$ と平坦であるが斜面は浸食され S_5 , S_4 がみられる。大陣岳は粗粒玄武岩質で山頂附近は S_3 で中腹にかけて S_5 , S_4 となっている。

有田・伊万里川低地は低地内に小丘陵がみられるが主として傾斜は S_3 , S_2 である。

(佐賀大学 渡辺 潔)

V 水系・谷密度

当図幅の水系は唐津湾と伊万里湾に流入するものに大別される。

唐津湾に流入する河川は松浦川、徳須恵川であり、伊万里湾に流入するものは伊万里川、有田川である。

松浦川は当図幅においては東部に位置し、水系を大別すれば巖木川、松浦川本川、徳須恵川となる。巖木川は本図幅に入らないが花崗岩地帯を流れる急流河川である。また松浦川本川の山地は第三紀層で地すべり地帯でもある。中流部の大川野附近では河川は蛇行し、特に駒鳴では河川が狭くなり、そのため常襲氾濫地帯でもある。これは下流支川の巖木川が急流でその流勢のため、下流への流下能力が低下するためであろう。徳須恵川は当図幅では中央部に位置し、大野岳、城古岳、国見岳に源を発する原屋敷川、府招川の支川の水を集め、徳須恵川となり、松浦川と合流し唐津湾に注ぐ。徳須恵川は松浦川と河状は類似しているが堤防が低いため、しばしばはんらんを起している。

伊万里川は水源を黒髪山系の牧ノ山、青螺山より発し、流路延長約 8.5 Km, 集水面積 29.4 Km²

の河川である。流域の上流で権現川、越峠川、牧川、中流で杏子川、古賀川、下流で白野川、脇田川を合流し伊万里市街地を東西に貫流し、伊万里湾に注いでいる。この河川の上流は急峻な黒髪山系で玄武岩地質よりなり河床勾配も $1/10 \sim 1/30$ であり中流は沖積層の耕地が広がり $1/100 \sim 1/300$ である。河口より約 2 Km は感潮区域でもある。伊万里川の川幅は上流 5 ~ 10 m, 中流 10 ~ 30 m, 下流 30 ~ 60 m 程度であり過去 2 回、昭和 23 年、昭和 42 年に市街地は洪水はん濫による大被害を被っている。

有田川は当図幅では西部に位置し、杵島郡山内町と長崎県境の神六山に源を発し上流には有田ダムより流れる白川、中流では広瀬川、蔵宿川、浄源寺川、唐船川などの支川と合流し伊万里市街を貫流して伊万里湾に注ぐ流域面積 100 Km²、延長 20 Km の河川である。本川の上・中流部は両岸に台地が広がり耕地として利用されているが、地質は第三紀層に属し地すべりの危険度が高い。昭和 23 年、42 年に伊万里市街に洪水がはん濫したため上流白川と支川広瀬川の上流に洪水調節用有田ダム、龍門ダムが近年完成した。

この他伊万里湾の西部には後川、里川、佐代川があり、いずれも伊万里湾に北流または西流して注いでいる。鳥帽子岳に源を発する志佐川は、屋敷川、讃岐川、ホキ川の水を集め北西に流れ玄界灘に注ぎ、また、佐賀県と長崎県の県境の国見山に源を発する佐々川は南谷川、竜ノ氏川の支川と合流し南西へ流れ佐世保湾に注いでいる。

当図幅の松浦川上流部山地の黒髪山、青螺山附近では谷密度は $25 \sim 36 / \text{Km}^2$ で、黒岳附近で大きく $32 \sim 40 / \text{Km}^2$ 、中流扇状地では $12 \sim 18 / \text{Km}^2$ を示している。徳須恵川の上流は樹枝状を示し城古岳東側は開折が進み当図幅で最大の谷密度を示し $46 / \text{Km}^2$ である。国見岳北側斜面も $35 \sim 42 / \text{Km}^2$ である。伊万里川の上流、青螺山、牧ノ山北側斜面では $26 / 37 / \text{Km}^2$ で大平山附近では $25 \sim 29 / \text{Km}^2$ となり伊万里市平坦扇状地では $7 \sim 9 / \text{Km}^2$ となっている。有田川は上流黒髪山の南側斜面は $20 \sim 30 / \text{Km}^2$ で幕ノ頭附近で最大となり $25 / 38 / \text{Km}^2$ で、中・下流では $15 \sim 30 / \text{Km}^2$ であるが伊万里市平坦扇状地では $7 \sim 9 / \text{Km}^2$ となる。

(佐賀大学 渡辺 潔)

VI 土地利用現況

別 葉

Ⅵ 土壤生産力区分

1 林地の土壤生産力区分

本図幅の林野土壤は、ヒノキ造林適地の占有面積が比較的高いため、その生産力区分については、三紀層を母材とする土壤型—堆積様式と、ヒノキの地位指数（林令40年の樹高 m ）を検討し、九州地方のヒノキ材林分収穫表の等級および地位級と対比した。その結果は下表のとおりである。

ヒノキの土壤型—堆積様式別地位指数と地位級との関係（第三紀堆積岩地域）

土壤型	堆積様式	調査点数	地位指数 (平均値)	九州地方収穫表		地位級	土壤生産力区分
				林令40年樹高	等級		
BB(w)	残積土	3	7.9	10.5m未満	等外地	Ⅳ	P ₄
BD(d)	残積土	5	10.8	10.5以上	3等地以上	Ⅲ	P ₃
BD(d)	匍行土	6	11.7				
BD	残積土	5	14.1	14.2以上	2等地以上	Ⅱ	P ₂
BD	匍行土	14	13.9				
BD	崩積土	9	15.4				
BD(w)	匍・崩積	3	18.6	17.9以上	1等地以上	Ⅰ	P ₁

すなわち、土壤と土壤生産力の対応は、おおむねP₁がBD(w)、P₂がBD型、P₃がBD(d)（ないしBC型）、P₄がBB型土壤と考えられる。従って、各土壤統とその生産力区分との関係はつぎのとおりである。

1等級(P₁) 適潤性土壤のBD(w)型を含めた湿性褐色森林土壤の肥前統がこれに該当する。

2等級(P₂) 褐色森林土壤の多良統、褐色森林土壤(黄褐色)の北山統および暗赤色土壤の八幡統がこれに該当する。

3等級(P₃) 褐色森林土壤の嬉野統、褐色森林土壤(黄褐色)の神崎統および暗赤色土壤の上場2統がこれに該当する。

4等級(P₄) 乾性褐色森林土壤(黄褐色)の金立統および暗赤色土壤の上場1統がこれに

該当する。

5等級 (P₅) 岩石地および石炭鉍滓堆積未熟土壌のポタ統がこれに該当する。

2 農地の土壌生産力区分

農林省地力保全調査事業の土壌生産力可能性分級を参考とし、その中から傾斜、侵食等の土地条件や耕耘の難易の項目を除き、次の土壌生産力分級要因によって分級した。分級要因項目は表土の厚さ、有効土層の深さ、表土の礫含量、土地の乾湿、湛水・透水性、酸化還元性、自然肥沃度、養分の豊含、障害性、災害性等である。

なお、この生産力等級は樹園地では樹園としての水田では稲作にとつての土壌生産力等級であつて、作目転換の場合は等級表現が変わることもあり、その農地固有の絶対的な等級ではないことを付記する。

本区分図での土壌生産力区分と土壌統との関連は次の通りである。

1等級 (P₁) 農地では該当する土壌統がない。

2等級 (P₂) 樹園地では赤山統、鶴木山統、大代統、櫟下統および形上統の一部、水田では日の出松、北多久、新野、氷見、土佐山、大木、真手野、大沢、佐賀、緒方、宝田、清武、川副の各土壌統が該当する。このうち佐賀、緒方、宝田統は1等級に近く、大沢、氷見、土佐山統は3等級に近い土壌である。

3等級 (P₃) 樹園地では俵坂統、唐原統、湯島統および形上統の一部、水田では風透、井尻野、久世田、国領、田川の各土壌統が該当する。

VIII 利 水 現 況

1 水 利 用 状 況

(単位：千^m²)

	六角川水系			松浦川水系			有田川水系			その他			合 計				摘 要
	田	普通畑	樹園地	田	普通畑	樹園地	田	普通畑	樹園地	田	普通畑	樹園地	田	普通畑	樹園地	計	
伊万里市	-	-	-	789	51	449	986	64	562	1713	114	977	3488	229	1988	5705	
武雄市	1540	43	792	521	15	268	-	-	-	-	-	-	2061	58	1060	3179	
相知町	-	-	-	624	18	484	-	-	-	-	-	-	624	18	484	1,126	
北波多村	-	-	-	262	53	182	-	-	-	0	0	116	262	53	298	613	
有田町	-	-	-	-	-	-	123	39	73	-	-	-	123	39	73	235	
西有田町	-	-	-	-	-	-	659	46	332	-	-	-	659	46	332	1,037	
山内町	-	-	-	592	76	278	-	-	-	-	-	-	592	76	278	946	
計	1540	43	792	2,788	213	1,661	1,768	149	967	1,713	114	1,093	7,809	519	4,513	12,841	
県 計	11,546	306	3,857	3,847	242	2,160	1,768	149	967	5,754	3,131	8,224	22,915	3,828	15,208	41,951	筑後川 嘉瀬川 塩田川 分岐含まず

(資料) 土地改良課

2 将来農業用水需給計画表

単位：千^m²()かんがい面積

農業 地帯名	水系名	面 積			総要 水量	既存 水源	不足量	供 給 水 量				摘 要	
		水田	畑	樹園地				国 営	県 営	未 計 画	計		
佐賀西部山麓農業地域	筑後川下流 土地改良	677	-	490 (490)	16,758	10,958	5,800	筑後川下流 5,800	-	-	-	5,800	
	六 角 川	2,150	74 (-)	1,852 (557)	23,984	22,180	1,804	-	天分湖504 繁昌 800	庭木 矢 荅	300 200	1,804	
	松 浦 川	3,847	242 (-)	2,160 (1,040)	47,263	47,263	0	-	-	-	-	-	
	有 田 川	1,768	149 (-)	967 (386)	22,260	20,513	1,747	-	古木場 547	山内町古場	1,200	1,747	
	その他(伊 万里山代)	1,395	39 (-)	830 (280)	15,744	14,644	1,100	-	-	下 分 既設溜池	800 高止300	1,100	
	◇ (上場)	318	75 (-)	147 (50)	3,538	3,068	500	-	-	木 須 加 倉	300 200	500	
	◇ (玉 島)	574	7 (-)	1,872 (1,835)	9,949	9,949	0	-	-	-	-	-	
	計	10,729	586 (-)	8,318 (4,638)	139,496	128,545	10,951	5,800	1,851	-	3,300	10,951	

(資料) 土地改良課

3 市町村別水道事業普及状況

単位：人・% (50. 3. 31現在)

	市町村人口	上水道			簡易水道			専用水道			飲料水供給施設			合計		
		給水人口	箇所	普及率	給水人口	箇所	普及率	給水人口	箇所	普及率	給水人口	箇所	普及率	給水人口	箇所	普及率
伊万里市	60335	29400	1	48.7	16154	17	26.8	-	-	-	360	5	0.6	45914	23	76.1
武雄市	34202	19456	1	56.9	355	3	1.0	-	-	-	637	8	1.9	20448	12	59.8
相知町	10889	5251	1	48.2	588	2	5.4	-	-	-	-	-	-	5839	3	53.6
北波多村	4236	-	-	-	4179	1	98.7	-	-	-	-	-	-	4179	1	98.7
有田町	14953	12863	1	86.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12863	1	86.0
西有田町	8130	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山内町	9210	-	-	-	6447	3	70.0	-	-	-	-	-	-	6447	3	70.0
計	141955	66970	4	47.2	27723	26	19.5	-	-	-	997	13	0.7	95690	43	67.4
県計	833608	483963	25	58.1	119038	144	14.2	7470	15	0.9	3537	51	0.4	614008	235	73.6

(資料) 環境整備課

(注) 西有田町は計画給水人口7,500人で昭和47年3月31日認可で着工中である。

(参考) 昭和48年 全国普及率は85.4%

4-1 市町村別工業用水統計表 (従業員30人以上の事業所)

	事業所数	1日当り水源別用水量 (m ³)							合計	海水
		工業用水道	上水道	地表水	伏流水	井戸水	回収水	その他		
伊万里市	56	2050	2018	65	4	483	60	1	4681	22
武雄市	14	0	514	17	0	536	20	30	1117	0
相知町	7	0	16	0	85	127	0	0	228	0
北波多村	5	0	363	0	0	176	0	0	539	0
有田町	34	0	1272	35	80	182	135	5	1709	0
西有田町	9	0	0	153	1	237	0	0	391	0
山内町	5	0	279	0	0	51	143	0	473	0
県計	463	6434	19160	137348	2951	602089	109676	185	337843	3942

(資料) S49年工業統計調査

4-2 市町村別工業用水統計表（従業員30人以上の事務所）

	事業所数	1日当り用途別用水量 (m ³)						合計	海水
		ボイラー用水	原料用水	製品処理 洗 浄 水	冷却用水	温調用水	その他		
伊万里市	56	1,202	380	(2) 722	1,219	4	(20) 1,154	4,681	22
武雄市	14	281	118	181	13	343	181	1,117	0
相知町	7	52	41	52	41	25	17	228	0
北波多村	5	53	40	157	12	198	79	539	0
有田町	34	18	544	603	110	6	428	1,709	0
西有田町	9	21	61	200	48	3	58	391	0
山内町	5	-	1	1	441	0	30	473	0
県 計	463	8,851	(200) 8,221	(682) 3,546.5	(3,040) 179,964	12,598	(20) 17,744	337,843	3,942

(資料) S49年工業統計調査

(注) ()は海水使用

5 ダム、溜池一覧(100千m³以上)

名称	有効貯水量 千m ³	目的	所在地
有田ダム	1,580	多目的	有田町
竜門ダム	2,350	〃	〃
大谷池	340	農業	〃
田代池	259	〃	伊万里市
神田溜池	145	〃	〃
郷司溜池	144.5	〃	山内町
濁沢池	100	〃	西有田町
黒牟田溜池	100	〃	山内町

(資料) 土地改良課

土地改良区

名称	受益面積 ha	種 類
79 西分土地改良区	54	圃場整備
179 東山代干拓土地改良区	50	干拓・かん排
185 二里町八谷瀬土地改良区	71	〃
210 国見土地改良区	875	かん排
186 大川町峯鶴土地改良区	57	圃場整備
204 大川町土地改良区	288	〃
208 松浦土地改良区	278	〃
198 武雄・山内土地改良区	580	〃
159 二里土地改良区	74	〃

(資料) 土地改良課

IX 防 災

1 地すべり防止区域

地 域 名		所 在 地		地域面積 (h a)	家屋数 (戸)	告 示 年月日	地すべり地の 概況発生年度	所 管
区域名	関係河川名	市 郡	町 村					
東 岳 下	牟 田 川	佐世保市	下 岳 町	10.10	2	35. 9.13	28年	建 設
潜 木	〃	〃	潜 木 町	8.84	6	36. 5.17	28年	〃
徳 道	相 浦 川	〃	柚 木 町	10.20	6	〃	〃	〃
三 本 木	〃	〃	〃	29.37	5	37.12. 6	〃	〃
柚木小舟	〃	〃	〃	66.32	110	35. 3. 4	〃	〃
長 田 代	佐々川	北松浦郡	世知原町	205.66	142	35. 8.25	28年, 31年	〃
念 田	北川内川	〃	〃	24.94	14	35. 9.13	26年	〃
北 川 内	〃	〃	〃	23.30		41. 5.18		農 林

2 砂防指定地

河 川 名		所 在 地	指 定 関 係		着工年度	竣工年度
幹川名	溪流名		告示年月日	面積(ha)		
福石川	福石川	佐世保市木風町	25. 9. 15	0.45	26	26
日字川	太田川	〃 黒髪町	42. 11. 30	4.23		
相浦川	久保仁田川	〃 下宇戸町	44. 3. 13	9.80	44	45
〃	石ヶ倉川	〃 里美町	41. 8. 30	4.84	41	42
〃	弥佐山川	〃 〃	〃	0.89	41	41
〃	流合川	〃 上宇戸免	42. 3. 22	4.50	42	43
〃	相浦川	〃 〃	〃	20.40		
〃	本 川	〃 柚木町	25. 9. 15	16.85	25	28
〃	〃	〃 〃	29. 3. 29	10.51	29	29
〃	赤瀬川	〃 高花町	44. 3. 13	5.50		
〃	白木川	〃 上柚木町	〃	5.30	44	45
〃	高尾川	〃 柚木岡免	32. 11. 13	1.70	32	32
〃	牟田川	〃 潜木町	37. 11. 14	2.90	36	36
牟田川	谷 川	〃 下岳免	42. 11. 30	6.30		

3 砂防指定地

河川名		所在地	指定関係		着工年度	竣工年度
幹川名	溪流名		告示年月日	面積 (ha)		
佐々川	南谷川	北松浦郡世知原町	42. 11. 30	12.60	45	46
〃	佐々川	〃 〃	〃	6.00	45	46
〃	本川	〃 〃	31. 3. 3	3.00	30	31
〃	龍の氏川	〃 〃	42. 3. 22	4.50	42	42
〃	佐々川	〃 〃	42. 11. 30	1.26	42	43
〃	北川内川	〃 〃	31. 3. 3	2.50	30	31
志佐川	笛吹川	松浦市大字笛吹	48. 5. 22	13.03	48	49

X 開発規制

1 県立公園

公園名	指定年月日	関係市町村	公園面積	利用型式	公園の特色
北松県立 自然公園	昭37. 1. 10	8市町村計	3,514.2 ^{ha}	ピクニック	丘陵景観 歴史景観地域 〔国見山系高原〕 シイ二次林 夏緑広葉樹林 お橋観音ほか 窯跡など
		松浦市	350.0	ハイキング	
		大島村	474.5	サイクリング	
		田平町	315.5	宿泊休養	
		江迎町	317.0		
		佐々町	756.2		
		吉井町	495.0		
		世知原町	802.0		
		小佐々町	4.0		

資料： 県自然保護課

2 保安林

市町村名	総数		水源 かん養林	土砂流出 防備林	土砂崩壊 防備林	防風林	魚つき林	その他
	箇所数	面積(ha)						
松浦市	22	141.76	—	114.30	1.92	—	22.54	3.00
佐世保市	45	1,189.50	896.92	203.85	66.10	5.75	16.88	—
世知原町	8	24.33	—	20.88	3.45	—	—	—
計	75	1,355.59	896.92	339.03	71.47	5.75	39.42	3.00

3 鳥獣保護区

名称	区域 (ha)	指定期間
県設鳥帽子岳鳥獣保護区	370	S48. 11. 1~58. 10. 31
県設お橋観音鳥獣保護区	312	S47. 11. 1~57. 10. 31

資料： 県自然保護課

4 都市計画区域

(単位 ha)

区域名	区域内 市町村名	範囲	面積	市街化区域	市街化調 整区域
佐世保	佐世保市	行政区域の一部	23,900	3,970	19,930
松浦	松浦市	〃	3,068	—	3,068

1976年3月 印刷発行

佐賀県伊万里湾総合開発地域
長崎県北松総合開発地域

土地分類基本調査

伊万里

編集発行 佐賀県総務部 土地対策課
佐賀市城内1丁目1-59

印刷 佐賀マイクロ計測株式会社